

## なんばたかし 難波喬司の政策提言

静岡の明るい未来を一緒に創っていきましょう！



### 1. 今、市政には変革が必要

皆さま、今の市政に何かもやもやしたものを感じていませんか。  
市政は「もっと変わって欲しい」のではないのでしょうか。

そう思う理由は为什么呢？

政策の問題？それとも仕事のやり方？

私は「市役所の仕事のやり方や説明に納得ができていない」ことが原因だと思えます。

市長は市政の運営責任者です。

市長は構想力とともに、確かな組織運営力で市役所の仕事のやり方をこれまでの延長線上ではなく、新しい時代にふさわしいものに変革する時です。

#### 〈私が描く市政のあり方の総括〉

- ◆ めざす社会：新しい時代の真に「安心感がある温かい社会」
- ◆ その実現方法：「社会の大きな力がつながる」×「世界の大きな知が集まりつながる」による「共働と共創」
- ◆ 市政の役割：社会全体の力の「共働と共創」でめざす社会が実現できるよう、社会を下支えし、社会に伴走し、結果が出るようにする市政：「信頼と共創の市政」(地域づくりの主体は、市民、地域社会、企業など)
- ◆ 市長の役割：市政の「運営責任者」
- ◆ 市長の意識と行動：「信頼と共創の市政」のための市長の10の意識と行動
- ◆ 市政の行動規範：「温かい市政」
- ◆ 政策・施策：政策・施策の全体像とその実現のための道筋をわかりやすく示した上で、新たな視点で常によりよいものへと進化しつづける  
⇒「新たな視点から、今後、取り組みを強化すべき10の政策」

### 2. 公約、いわゆる「マニフェスト」について

私はこう考えます。

選挙に臨む者は、「私が当選したら〇〇を実現します」という公約をいくつか掲げるのが通常です。

公職選挙は、議員を選ぶ選挙と首長を選ぶ選挙があります。私は、市長を選ぶ選挙と議員を選ぶ選挙は本質的に異なると思っています。

議員は、住民の声をおききし、集約しその声を住民に代わって議会に届け、議事に携わり、市政に提案し、市政に実行させ、市政を監視するのが大きな役割です。

このため、議員の公約は、住民の要望や意見をききつつ、自身の考えに基づき、「私が当選したら〇〇を実現します」とすることは自然だと思います。

一方、市長は、市政の運営責任者(経営者)として住民の声をおききし、社会にとって望ましいありとあらゆる取組みを「考え抜き、やり抜き、実現する」のが役割です。

よって市長の公約は、社会にとって望ましいありとあらゆる取組みを、「私はこのような方法でやり抜き、実現します」というものであるべきと考えます。

よって、私、なんばたかしの公約は、「こういう市政運営を行います。これによって社会にとって望ましい結果を出します」という内容にしています。

このような公約を掲げると、「公約がない」という評価をいただくことがあります。

それは「公約」とは「〇〇を実現する」をいくつか掲げるものだというお考えによるものだと思います。

しかし、社会問題は複雑です。たとえば「子育て支援策として〇〇を無償化します」は大事ですが、それをやれば社会問題が解決するほど単純なものではありません。

そこで私は、「〇〇を無償化します」というような一つの施策を公約として掲げるのではなく、「市政の運営方針」、その方針による「人づくり、組織づくりの方法」を示し、その上で、「子育て支援等のためのありとあらゆる政策・施策の考え方」を公約として掲げています。

### 3. 静岡がめざす社会:新しい時代の真に「安心感がある温かい社会」

静岡市には、絶対的な強みとなる魅力(地域の固有の力)があります。それは、「美しく豊かな自然環境と温暖な気候」「歴史性が根付いた文化力」「温かい人のこころと絆」「多様で深みのある産業力による経済的活力」などです。

私は、この中でも、「温かい人のこころと絆」が静岡市の絶対的な強みだと思っています。地域づくりにおいては、その地域の強みを活かすことが不可欠です。

そこで、私が描く静岡市がめざす社会は、  
新しい時代の真に「安心感がある温かい社会」です。

### 4. めざす社会を実現するための方法:「信頼と共創の市政」により「社会の大きな力がつながる」×「世界の大きな知が集まりつながる」ようにする

「地域社会」や「まち」は、「ひと」とその集まりの「社会」が一緒につくるもの(社会で共創するもの)です。

地域づくりの主役は「ひと」と「社会」

です。社会には、まだ十分に活用されていない「社会の大きな力」があります。また、世界には「大きな知の力」があります。これらはしばしばバラバラに存在し、うまくつながっていません。これらの力がつながり、うまく働けば、社会問題の解決や新たな価値・魅力づくりの大きな力となります。

私は、市役所の役割は、めざす社会を実現するために、社会の力をうまくつなげるようにすることだと思います。

どうすれば、社会の力がうまくつながるようになるのでしょうか。

私は、次の4つだと思います。

一つ目は、**「地域がめざす目標の共有」**  
どういう社会をめざすのか、こういう社会になればいいな、ということの共有です。

二つ目は、「一緒にやろう」という、  
**「思いの共有」(共鳴・共感)**

三つめは、その実現のために、  
**「社会にある大きな力」が引き出され、  
それらがつながり、うまく働くような基盤があること**

四つ目は、  
**目標の実現に向けて、道筋をみんなで一緒に考え、  
一緒に前に進んでいくこと(共働・共創)**

です。「共創」とは、友達や仲間、仕事の同僚など、誰かと一緒に(共に)何かを創造し、生み出すという意味です。誰かと一緒に何かを実現する(結果を出す)ときに大事なことで、それは、

**「相互信頼」と「社会目標の共有」**

です。市政における信頼は、一方通行ではなく双方向。市民は市政を信頼する、市政は市民を信頼する、それがあから「共創」できます。

**私は「信頼と共創の市政」で結果を出します。**

**「社会の大きな力がつながる」×「世界の大きな力がつながる」  
ようにするとの視点から10の政策を提案します。**

# 「社会の大きな力がつながる」政策とは・・・地域の居場所づくりの例

〈ありがちなこと〉



(社会の声)

市営施設を多目的に利用したいのだが・・・

(市)

規則はこうなっているので、そのような利用は認められない

(社会の声)

地域には空き家など、子供が遊び場として使えるものがあるので市も活用を検討して欲しい

(市)

私有財産には支援できない。民は民で考えるべき

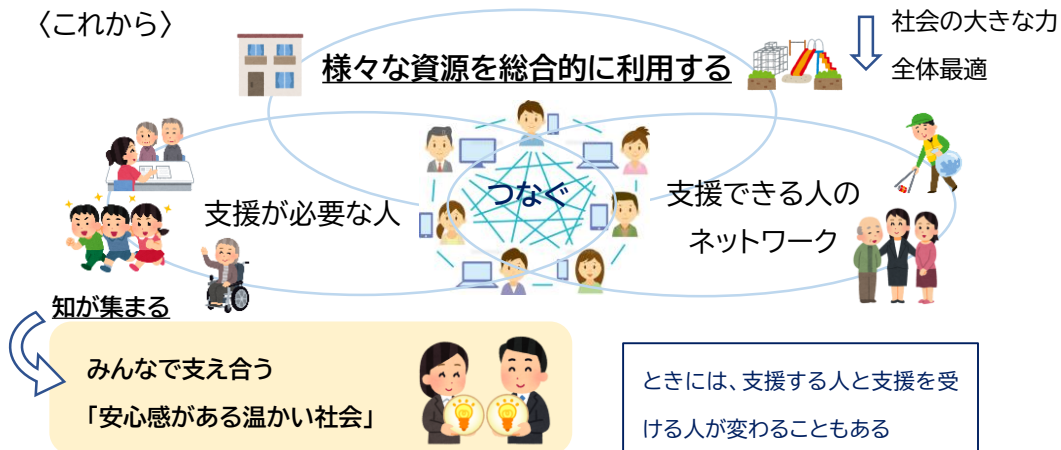
(社会の声)

子育てには支援など様々な要因が影響するもっと総合的に教育などの政策を考えて欲しい

(市)

その担当は〇〇課なので、そこと相談して欲しい

〈これから〉



(社会の声)

こういう柔軟なやり方をすれば、ここに小さな支援があれば社会の力をもっと活用できるのでは

(市:子育て教育総合相談室)

それは仰る通りですね

私たちは中心になって、ネットワークづくりのチームを設置していますので、よい方法を考えてみます。

バラバラに存在する「社会の需要(支援)」と「社会の供給(支援可能者)」。それに「利用可能施設」をネットワーク化し、「大きな社会の力」とする

子育て教育統括監(副市長級)がチームを統括し、最適な取組みを実行

# 台風15号の災害への対応・政策が悪かったからなのか

政策の例:第四次静岡市総合計画 基本計画-分野別の取組

## ⑨防災・消防分野

### 1 2030年の目指す姿

あらゆる危機から市民の「いのち」「暮らし」を守り、安全・安心なまちを実現します

### 政策・施策体系図

政策1 あらゆる危機に対応できる強靱な体制整備を推進します

#### 施策① 危機管理体制の強化

事業イメージ・対策本部機能の強化・災害配備体制の強化 等

⇒政策が悪かったのではない。

自衛隊派遣要請の遅れの問題は「結果」

問題の本質は「組織の初動」

大事なことは、どうやって「体制の強化」を実現するか、したか